

- 調査の際 2 点出土し、うち 1 点は住居址覆土から出土し、欠損品であり、もう 1 点は住居址外から出土した小破片であるという。報告書は未刊、札幌大学文化交流研究所蔵。
- 註.5 斎藤 傑氏の御教示によれば、本遺跡では今のところ 6 点出土したという。いずれも遺構外から出土し、無文である。報告書は明年刊行予定。

参考文献

- 宇田川 洋 1981 「擦文文化の遺跡」『北見市史 上巻』
- 浦幌町教育委員会 1973 『十勝太古川・若月遺跡発掘調査概報—第1次発掘調査—』
- 大谷敏三・田村俊之ほか 1982 『末広遺跡における考古学的調査(下)』千歳市教育委員会
- 大沼忠春 1979 「北海道中央部の擦文文化」『どるめん』No. 22 JICC出版局
- 大沼忠春・佐藤隆広・江差高校考古学部 1976 「江差町厚沢部川河口遺跡の採集資料」『桧山考古学研究会々誌』5
- 大沼忠春・大沼あさ子 1977 「元和 8 遺跡の調査」『元和』(続) 乙部町教育委員会
- 大場利夫・大井晴男編 1976・81 『香深井遺跡(上)・(下)』(オホーツク文化の研

- 究 II・III) 東京大学出版会
- 小平町教育委員会 1981 「小平町高砂遺跡」『北海道考古学会だより』第12号
- 金盛典夫・村田良介・松田美砂子 1981 「須藤遺跡」『斜里町文化財調査報告』I
- 菊池徹夫 1979 「擦文文化の鉄器について」『どるめん』No. 22 JICC出版局
- 桜井清彦 1958 「北海道奥尻島青苗貝塚について(第1次調査概報)」『古代』27 早稲田大学考古学会
- 佐藤隆広 1980 「ホロナイボ遺跡」枝幸町教育委員会
- 佐藤隆広 1981 「ホロナイボ遺跡 II」枝幸町教育委員会
- 佐藤忠雄 1979 「北海道西南部の擦文文化」『どるめん』No. 22 JICC出版局
- 佐藤忠雄・山田 忍 1978 「青苗遺跡発掘調査概報」奥尻町教育委員会
- 高畠宜一 1894 「石狩川沿岸穴居人種遺跡」『東京人類学会雑誌』10—103
- 藤本 強 1982 「擦文文化」教育社
- 藤本 強・宇田川 洋・武田 修 1982 『岐阜第二遺跡』常呂町
- 八幡一郎ほか 1966 「西月ヶ岡遺跡」『北海道根室の先史遺跡』根室市
- 吉崎昌一 1974 「北海道のヒト」北海道新聞社

浦幌町郷土博物館報告総目次

——創刊号～第19号——

浦幌町郷土博物館

- | | | | |
|--------------------|-------|-----|-----------------------|
| 題名 | 号 | ページ | 先人の精神文化を伝えるものに |
| 〈序・あいさつ・巻頭言〉 | | | 本間 道男 16 2 |
| 『浦幌町郷土博物館報告』発刊のことば | | | 開館10周年を迎えて 家村 克行 16 3 |
| 野沢 貞男 | 1 | 2 | 〈博物館〉 |
| 年頭所感 | 野沢 貞男 | 6 | 浦幌町郷土博物館の資料と分類基準について |
| 年頭所感 | 家村 克行 | 7 | 後藤 秀彦 1 3～4 |
| 文化財保護の一断層 | 石橋 次雄 | 9 | 80年代での浦幌町郷土博物館の振興 |
| 郷土博物館探訪 | 井下まさの | 10 | 大井 康行 16 3～5 |

〈考古〉

- 浦幌町の発掘調査された遺跡
後藤 秀彦 1 4~9
- 十勝の遺跡Ⅰ—浦幌町平和遺跡出土の遺物について
佐藤 訓敏 3 2~4
- 下頃辺式土器とその周辺の諸問題
後藤 秀彦 4 9~14
- 共栄遺跡B地点出土の土器について
後藤 秀彦 4 15~16
- 生剛遺跡出土の遺物について
山川 陽子 5 8~12
中山加代子
沢崎 正則
泉 幸平
森 真悟
福本 悅子
- 十勝地方におけるオホーツク
吉野勢津子 5 13~15
- 底面に貝殻背压痕文のある土器
後藤 秀彦 5 15~16
- 浦幌新吉野台細石器遺跡出土の遺物
後藤 秀彦 6 15~20
佐藤 訓敏
- 浦幌町稻穂出土の装身具
後藤 秀彦 7 15~16
- 石刃鍔文化について 梶原 洋 8 8~12
- 地域における考古学研究への提言
杉浦 重信 9 6~8
- 鹿追町No.27(北鹿追野尻)遺跡出土の両頭石槍
佐藤 訓敏 9 8~9
- 享保七丁丑年銘のある鰐口
後藤 秀彦 9 9~12
- 北海道陸別町で発見した4つのチャシ跡
石橋 次雄 10 8~12
後藤 秀彦
- 霧止山チャシ跡について
後藤 秀彦 11 3~5
佐藤 芳雄
- チャシ跡関係文献目録—1890年~1977年—
後藤秀彦編 11 8~12
- 稻穂チャシ跡について一下頃辺川に面した単塙の
チャシー
石橋 次雄 12 2~6
後藤 秀彦
佐藤 芳雄

佐藤 訓敏

- モコト式土器の新資料—浦幌町平和遺跡出土の縄文中期の土器—
後藤 秀彦 13 10~12
- オルベチャシ跡について
後藤 秀彦 14 11~12
- 十勝太若月遺跡出土炭化物の識別について
松谷 曜子 16 5~13
- チャシの橋状遺構について
後藤 秀彦 16 13~21
- 十勝地域考古学関係文献目録
佐藤訓敏編 17 15~24
- 簡易写真測量
石橋 秀哉 19 2~9
- チャシの形態分類に関するメモ
後藤 秀彦 19 9~12
- 〈近世・近代史〉
- 獅子頭
後藤 秀彦 1 9
- 中浦幌駅通所と中川北松Ⅰ 座談会 2 5~12
- 中浦幌駅通所と中川北松Ⅱ 座談会 3 5~11
- 中浦幌駅通所と中川北松Ⅲ 座談会 4 2~9
- 中浦幌駅通所と中川北松Ⅳ 座談会 5 2~7
- 中浦幌駅通所と中川北松Ⅴ 座談会 6 2~6
- 中浦幌駅通所と中川北松Ⅵ 座談会 7 8~15
- 浦幌町開拓獅子舞(浦幌町無形民俗文化財)
山村 照雄 11 2~3
- 生剛村旧市街の街並みの形成について
安藤 龍逸 12 10~14
後藤 秀彦
- 浦幌炭礎における運炭方法の変遷—特に大和礎業株式会社の場合—
谷向 繁 13 2~7
- 浦幌炭礎の街並み形成について
谷向 繁 14 4~10
- 1910年代の浦幌(覚書)—特に『十勝国産業写真帖』を中心として—
後藤 秀彦 15 5~12
- 1916(大正5)年8月15日の大火と街並み形成
鈴木 智子 17 8~15
後藤 秀彦
- 生剛という地名についての覚書
後藤 秀彦 18 6~12
- 〈古生物〉
- 上厚内で発見されたデスマスチルスの化石
犬塚 則久 8 2~7
秋山 雅彦

大槻日出男

浦幌町3頭目のデスマスチルス化石発見

木村 方一 10 3~8

佐藤 芳雄

後藤 秀彦

〈昆虫〉

浦幌町の蝶類レポート I

円子 紳一 2 2~5

浦幌町に於ける蝶類の分布

松本 尚志 6 6~15

浦幌町郷土博物館所蔵の阿部宏氏の蝶標本

円子 紳一 7 2~5

浦幌町における蝶類の出現期

円子 紳一 7 5~7

カラフトタカネキマダラセセリの発見及びその採集について 松本 尚志 7 7~8

浦幌町における蝶類の出現期一特にシロチョウ科について一 円子 紳一 9 4~5

帶富で採集したヒメキマダラヒカゲ

円子 紳一 9 6

浦幌町における蝶類の出現期一特にジャノメチョウ科について一 円子 紳一 11 6~7

浦幌町の蜻蛉目(トンボ)分布について

松本 尚志 13 7~10

浦幌町における蝶類の出現期一特にセセリチョウ科について一 円子 紳一 14 2~4

東山でイシダシジミを採集

円子 紳一 14 10~11

浦幌町における蝶類の出現期一特にタテハチョウ科について I一 円子 紳一 15 2~5

浦幌町における蝶類の出現期一特にタテハチョウ科について II一 円子 紳一 16 21~24

アサギマダラ2頭を探集

円子 紳一 16 24

浦幌町で採集された蝶 円子 紳一 18 2~6

〈動・植物〉

浦幌町の淡水魚類の分布

松本 尚志 12 6~10

植物の生育と環境 植田 国夫 17 2~8

〈自然保護〉

自然保護と開発

米司 綾逸 17 25~26

〈表紙写真〉

浦幌町郷土博物館全景	1	1
元・中浦幌駅通所遠景	2	1
十勝太古川遺跡	3	1
乙部チャシ跡	4	1
オコッペ遺跡	5	1
アオサギの幼鳥	6	1
十勝太河岸段丘遺跡	7	1
浦幌町発祥の碑	8	1
旅来チャシコツ	9	1
明治41年1月24日付「小樽日報」	10	1
十勝川口チャシ跡	11	1
十勝郡大津村字十勝太における鮭の曳網	12	1
岐阜農場事務所	13	1
1917(大正6)年6月17日、第一浦幌尋常小学校 (現吉野小学校)で開催された第一浦幌尋常小学 校・養老尋常小学校連合運動会記念撮影		
十勝太Dチャシ跡	14	1
十勝太大西遺跡と十勝太Dチャシ跡	15	1
チフラウレシトウチャシと豊頃町No.35遺跡と十勝 坊主群	16	1
十勝郡生剛外二ヶ村戸長役場	17	1
旅来チャシ跡	18	1
	19	1

〈その他〉

博物館日誌より	1	9~10
受贈図書	1	10
受贈図書	2	12
受贈図書	3	12
購入図書	3	12

1982年12月15日 印刷
 1982年12月20日 発行
 編集 後藤秀彦
 行事責任者 家村克行
 発行所 沿幌町郷土博物館 (089-56)
 北海道十勝郡沿幌町字東山町23番地
 印刷所 大同出版紙業株式会社 (080)
 北海道帯広市西7条南6丁目